

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
176	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
International study of heavy drinking: attitudes and sociodemographic factors in university students. 重度飲酒者の国際比較、大学生の態度及び社会統計学的要因	
<b>執筆者</b>	
Dantzer C, Wardle J, Fuller R, Pampalone SZ, Steptoe A.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
J Am Coll Health. 2006 Sep-Oct;55(2):83-9.	
<b>キーワード</b>	
アルコール、健康信念、国際、社会統計、学生	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的・方法：</b> 著者らは重度飲酒者の有病率につき 21 ヶ国の大学生 (17-30 歳)、(男性 7846 名、女性 9892 名) の匿名調査を行った。</p> <p><b>結果：</b> 国ごとに飲酒率は大きく異なっていた。重度飲酒の定義は、男性で 1 機会に 5drink(約 2.5 合) 以上、女性で 4drink (約 2 合) 以上の飲酒を 2 週間中に一度以上したこと、とすると、男性ではベルギー、コロンビア、アイルランド、ポーランドが女性ではアイルランドとイギリスで高かった。重度飲酒は家を離れていること、裕福な家族背景、高い教育歴の両親と関連していた。過量飲酒の害についての認識は重度飲酒と逆の関連を示していた。重度飲酒はいくつかの国での懸念であるとともに裕福な生活と関連していた。</p> <p><b>結論：</b> 健康被害に関する意識に対する挑戦は、そのような重度飲酒に悩む国にとっての重大な予防課題であろう。</p>	